

# 子ども大学かわごえ CUK だより

第 15 号 NO.1101

2011 年 1 月 13 日

新(あらた)しき年の初めに思ふどち(友)、い群(む)れて居れば  
うれしくもあるか (万葉集) 道祖王(ふなどおう)

新年おめでとうございます！今年もみんな積極的に新しい知識を吸収しましょう。

今月 16 日には合同新年会が催され、川越氷川神社で初詣をします。

今月 27 日には 2 つの「ふるさと学」の授業があり、(株)亀屋山崎嘉正社長と蓮馨寺桑原恒久住職が「川越の商工業」と「川越の観光」につき話されます。

2 月 12 日には池上彰客員教授の授業があり、3 月 12 日・13 日には学園祭“こどもがつくるまち「ミニかわごえ 2010」”が開催されます。

今学年の授業は以上で終わりますが、最後までがんばって有終の美を飾りましょう。

では、11 月と 12 月の授業の様子を振り返りましょう。

## そばにある国際化：フランスの弁当箱と忍者ナルト 早稲田大学大学院商学研究科 池上重輔 准教授 (2010 年 11 月 27 日 於・東京国際大学)

今日は 120 人の学生と 64 人の保護者が先生のお話を聞くため教室に集まりました。

時間どおり、世界の中の日本についての先生のお話が始まりました。先生は世界のいろんな国へ出かけられます。それぞれの国で楽しい発見があったり、おもしろいものに出会えるからです。

チームを作って、みんなで世界の国の名前を書く競争をしました。教室はにぎやかになって、たくさんの国があがりました。30 も知っているチームもありました。先生は「いろいろな数え方や分け方がありますが、少なくとも 140 以上 200 くらいあります」と言われたので、みんなびっくり。

今日のテーマの一つは国際化です。「グローバルって言葉があるでしょう。国際化とグローバルはちょっと違います。海外へ出ていくこと、

これが国際化です。グローバルとは特別な定義があります。みんなが一緒ということです。例えば、グローバルな製品は同じものが世界中で売られているということです。仕事をしているときはその違いを意識しないと困ることがおきたりします」先生は続けます。

「世界の人口は年内に 70 億人を超えるかもしれません。一番多いのが中国で、日本は 10 番目です。日本は国土のわりには人口が多いのに、一人ひとりで見るとお金持ちの国なの



です。ほかの国はお金がなかったり仕事がなかったり日本よりも悪い状況にあります。日本の国のGDP（豊かさの指標）をそれぞれの県に分けてみると、北海道はタイと、近畿地方はオーストラリアと、関東地方はイタリアと同じくらいの経済規模です。」

「日本はどれくらい外へ出ているのか。国際化の一つは、物を売る、作る、買って来てということです。例えば、グローバル製品と呼ばれている『iPhone』はどこの世界でも同じような形で売られています。部品のチップやパネルは半分以上が韓国や中国製品です。無線の送信機は北欧のものです。iPhoneは世界中から物を買って商品化しているグローバル製品の象徴（しょうちょう）のようなものです。少年ジャンプで有名なマンガ『ナルト』は今、世界で一番売れています。日本は忍者のイメージがあるからなのでしょう。これは国際化商品と呼ばれるものです。」



そして貿易の話になりました。「日本は輸出が多いのです。一番売れているのは車です。輸出先はアメリカ。次に中国、韓国、台湾、香港です。アメリカのほかの相手国はアジアが多いのです。これは世界中の傾向です。でもヨーロッパと関係が薄いということではありません。ルールを作るときはヨーロッパが主要な役割を演じることが多いのです。貿易はなんでも自由に売ったり買ったりできるということではありません。お金の関係があり

ます。日本は円をつかっています。アメリカはドル、ヨーロッパはユーロです。お金を換える割合を為替（かわせ）レートといいます。1950年頃は1ドルが360円でした。この時は世界の国々とドルの間でレートを決めていたのですが、そのうち、売りたい人と買いたい人の間で決めましょうということになりました。その結果ドルは今は1/4以下の値段（80円台）になってしまいました。こういう大きな変化がこれからも起きるかもしれません。」

「海外へ行くと違ったものの見方があります。」と先生は言って、次のテーマに移りました。

「私たちが良いと思っていることも、外国ではそうではないかもしれません。例えば、『沈黙は金』という言葉があります。外国では言いたいことを言わないでいると頭が悪いと思われれます。逆に日本ではあたりまえのことが、外国では珍しいと評価されることがあります。それはお弁当箱です。フランスは外食をするイメージがありますが、不況の影響もあってみんな家から食事を持っていくようになりました。日本に来ていたフランス人がお弁当箱を国へ持って帰ったら、こんなにいい物はないということで輸入するようになり、爆発的に人気が出ました。炊飯器などもそうです。私たちがふだん当たり前に使っているものも、外国の人の目で見ると大変価値があるものなのです。デジカメは日本でも海外でも同じように評価されました。デジカメやテレビは海外で競争するので値段が下がってしまいます。」



先生が大きな赤い箱を取り出してみんなに見せました。「これはゲッペイという中国のお菓子です。」開けるとすごく大きいお菓子が1個入っていました。「日本では『どうぞみなさんで』と言って、詰め合わせのおみやげを渡しますが、中国ではこれは失礼にあたります。『おみやげはあなただけに』という意味があるからです。」

中国の人はごちそうになっても翌日は知らんぷりです。その場でお礼は言いますが、またあらためて後で言う『もう一度ごちそうしてよ』と、とられてしまうのです。私たちが良いと思っていることと悪いと思っていることには違いがあるのです。」そして先生は「外国へ行ったら、自分は何をしたいかということをしつかり主張をすることです。しかし相

手の価値観（かちかん）の違いを分からなくてははいけません。海外に目を向けて、いろいろな価値観があることを意識して上手に主張していくことが大事です。」とお話を結びました。

## なるほど！ 童謡 ～日本の文化“童謡”の魅力を再発見～ 子ども大学かわごえ客員教授 たいらいさお氏 (2010年12月11日 於・東洋大学)

今日は歌(童謡)の授業です。114人の学生と55人の保護者が集まりました。先生は、「元NHKのうたのおにいさん」です。

まず、♪もりのくまさん♪の歌が流れだしました。教室はほのぼのとした空気になっていきます。そして♪ドレミのうた♪で動きを付けた遊びが始まりました。ドはドーナツのド。手を頭の上で丸くドーナツの形に。レはレモンレ。胸の前でレモンの形。ミはみんなのミ。大きく手を広げて。ファはファイトでガッツポーズと、みんなは先生と一緒に振り付きで歌いました。次の♪赤とんぼ♪は歌詞カードがありました。後ろの保護者の方たちも歌っています。

この3曲の中で『もりのくまさん』、『ドレミのうた』は外国曲。日本の童謡は『赤とんぼ』でした。歌は初め、外国の曲に日本語の歌詞をつけたものが多かったそうです。

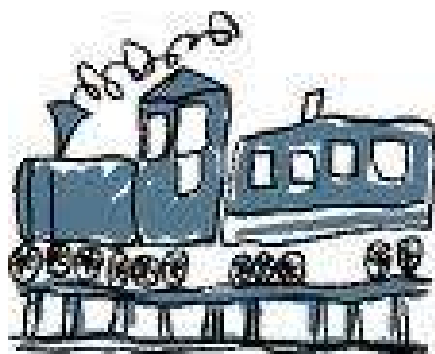
先生は歌ったり、お話ししたりします。「日本の歌は、わらべうたや唱歌が始まりです。わらべうたは日本古来からのもので『かごめかごめ』『ずいずいずっころばし』『通りゃんせ』があります。『通りゃんせ』は川越にゆかりがある歌。歌にある三芳野神社は川越城内にあって天神様と呼ばれていました」先生は♪通りゃんせ♪のCDをかけました。



明治になって唱歌が出来ました。岡野貞一の『ふるさと』、『春の小川』などがそうです。唱歌は文語調で難しい、もっと簡単に子どもたちが歌える歌をと作られたのが童謡です。大正7年に児童文芸誌「赤い鳥」の詩に曲をつけたのは山田耕筰、中山晋平などです。童謡クイズです。「わざと間違えて歌うから、それがどこかを当ててみてください。」♪汽車ポッポ♪ゆき♪どんぐりころころ♪と、先生は順番に歌いました。みんなは間違っている

と思う歌詞を探しました。「『どんぐりころころ』は『どんぶりこ』です。みんな『どんぐりこ』だと思っていたでしょ。どんぐりが池をどんぶりどんぶりしている様子です。

『ゆき』は『こんこん』ではなく『こんこ』。漢字で『来んこ』と書きます。『降ってきて』と思っている気持です。『汽車ポッポ』の始めは『ポッポ、ポッポ』で『シュッポ、シュッポ』と続きます。『シュッ、シュッ』というのは蒸気の音で、『ポッポー』は汽笛の音を表しています。



次に、♪蝶々♪チューリップ♪ごんべさんのあかちゃん♪のCDを聴きました。「この3曲の中で日本人が作った曲は井上武士の『チューリップ』です。『蝶々』は、最近ドイツ民謡だということが分かってきました。『ごんべさんのあかちゃん』は、リパブリック讃歌(さ

んか) と言ってアメリカの歌です。

「昔は『見渡せば』というタイトルの季節を愛でる歌がありました。これが『むすんでひらいて』になりました。『むすんでひらいて』は『て』がいっぱい出てくるから、“て”抜き歌にしましょう」。先生に言われて、みんな張り切って歌います。また楽しくなりました。♪あめふり♪シャボン玉♪たぬきのレストラン♪かくざとういっこ♪のCDがかかりました。歌を聴いて思ったことを発表することになりました。「『たぬきのレストラン』の最後の歌詞の“はれつしそう”のところがおもしろかった」「『かくざとういっこ』は、ゾウには物足りないけど、アリはお腹いっぱいになるんだなと思った」などの感想がありました。

先生の友人の矢部あきらさんが詞を書いたものに、先生が曲を付けた♪なかまはたから♪を手話を入れてみんなで歌いました。これは阪神淡路大震災の後に作ったメッセージソングです。



川越ゆかりの童謡作家を作品と共に紹介しました。「名村宏さんの『たぬきのレストラン』はさっきも紹介しました。関根栄一さんは『おつかいありさん』や『カレーの歌』を書いています。小室志をりさん(CUKスタッフで校歌作詞)の『はなのうみ』と『こんがりにおい』は、福島県の広野町の童謡のコンクールで優秀賞になりました。CDに収録されています」♪はなのうみ♪こんがりにおい♪が流れました。

残したい名曲童謡に♪あめふりくまのこ♪サッチャン♪めだかの学校♪などがあります。「めだかの学校」の作曲家 中田喜直さんは、子どものための曲をたくさん作っています。童謡の礎を築いてきた人です。作詞は茶木滋さんです。

童謡はもともと短いけれど、その中でも特に短い歌が『おつかいありさん』です。これは前奏と後奏を入れても30秒、まど・みちをさんの『ぞうさん』も42秒。♪あつかいありさん♪ぞうさん♪にみんな耳を澄ましました。

先生は終わりに、先生のどんなコンサートでも必ず歌うという「大きな古時計」を、教室いっぱいに響かせて歌いました

## 連絡事項

1. 1月27日「ふるさと学」授業  
東京国際大学第1キャンパス3号館314教室で授業を行います。1時から受付を始めますので、遅れないようにしてください。
2. 2月12日池上彰先生授業  
上記と同じ教室で2コマ授業を行います。タイトルは『「テレビの見方」を考えよう』と『「民主主義の国」とはどんな国?』です。

子ども大学かわごえ

学長 遠藤 克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ  
〒350-1109 川越市霞ヶ関北3-12-6  
霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>  
TEL 080-2053-2991 (事務局直通)  
FAX 049-233-1640F  
E\_MAIL [info@cuk.or.jp](mailto:info@cuk.or.jp)